

# フラッターLC使用方法

## フラッターLCの割合

フラッターLC	水
20kg/1袋	5kg

## フラッターLCの塗布面積

平均塗布厚	塗布面積/袋
2mm厚	約6m <sup>2</sup>
3mm厚	約4m <sup>2</sup>

## フラッターLCの積算

### 算出方法

$$W=2^{※1} \times 0.8^{※2} \times S \times t$$

フラッターLC必要量=W(kg)

施工面積=S(m<sup>2</sup>)

塗布厚=t(mm)

※1:スラリー比重

※2:スラリー中の粉体割合

フラッターLCの施工では、現場の不陸の程度や、作業状況によってロスが生じますので、積算する場合は2~3%程度のロスを考慮してください。

## フラッターLC 施工の流れ

### ①下地の点検、清掃



下地に浮き等が生じている部分は予め剥がす。著しい凹み、段差は、フラッターQF20などで充填する。

### ②プライマーの塗布



フラッタープライマーLC原液をローラー刷毛などで下地に塗布する(コンクリート下地の平均塗布量:100g/m<sup>2</sup>)  
注)プライマーの塗布が不十分な場合、施工後に気泡が発生し、硬化後の表面に残りやすくなります。下地の吸水性が高い場合は、プライマーを水で2倍液にして重ね塗りするなど、状況に応じてご使用ください。

### ③流出防止の養生



配線口、壁際、入口の取り合い部など、フラッターLCが流れては困る部分を予め養生する。

### ④混練



配合水を規定量(5ℓ/1袋)バケツに取り、フラッターLCを投入して約3分間均一になるまで攪拌する。攪拌後、30秒ほど静置し、エアを脱泡する。  
注)配合水が多い場合、表面強度が低下する(上限27%)。  
注)脱泡が不備な場合、フラッターLC均し後に気泡が多く発生します。

### ⑤均し



混練後10~20分以内に均し用具、左官ゴテなどで下地を均一に均す。

### ⑥養生



打設後軽歩行が可能になるまでは、通風による急激な乾燥や室温の低下を避け、養生する。

### ⑦下地の完成→床材施工



気泡跡などの不備がある場合は、フラッターQF20などで補修する。

フラッターLCはレベリング性を持つため、下地をある程度まで平滑にすることはできますが、補修厚さが2~3mmでは、大きなうねりを消すまでには至りません。大きなうねりを消すためには、補修厚さを大きくする必要があります。また、補修厚さが0.5mm厚程度のしごき補修用途には、フラッターをご使用ください。

## フラッターLC専用工具

フラッターLC専用工具は316ページ施工用具をご参照ください。